

青高グランドファイナーレ

母校に感謝

未来は青山 から翔青へ



青高グランドファイナーレ特別号

今回の記念紙1面の堂々とした題字、そして各ページの上にある「青山高校新聞」の文字(新聞用語で「サンプル」と言います)は、24回生の原田美樹さんに揮毫をお願いし快諾いただきました。紙面では小さいですが、本当は50cm以上もある作品です。

発行・編集

青高グランドファイナーレ実行委員会

※本記事・写真・レイアウトの無断転載を禁じます。

2面 青高のヒミツを探る



女子校時代の
校章

3面 たくさんの笑顔“大集合”!



4・5面 体育館も大盛り上がり!



6・7面 校歌・校訓を忘れない

8面 いろんな世代で卒業写真

青高グランドファイナーレ写真集



以下のアドレス、もしくは左のコードから記念紙に掲載されない写真を沢山みることができます。スマートフォン、パソコンでご覧ください。

<https://goo.gl/photos/jn5B6YceiRtkc3Je9>

53年の歴史に幕を閉じた別府青山高校。母校に感謝の思いを伝えるグランドファイナーレ(3月19日)には、さまざまな世代の卒業生など約2千人が集合。久しぶりの再会を喜んだり、思い出の詰まった校内を家族で見学したりと、青高らしくにぎやかに、明るく有終の美を飾った。

体育館であった閉校セレモニーは、青山の「魂」を引き継ぐ別府翔青高校のプラスバンド部による演奏と書道部のパフォーマンスで開幕。演劇部とプラスバンド部によるステージ「青春リバイバルショー」は各世代の青春ヒットソングが盛り込まれ、客席も一体で楽しんだ。

校内を巡るツアーは大盛況。高校時代の思い出が詰まった教室や渡り廊下などを回って懐かしんでいた。中庭では、和太鼓の演奏や焼きそば早食い大会などさまざまな出し物があり、笑いが絶えなかった。

学年、世代は違っても「明るく、強く心温かく」の校訓のもとで学んだ仲間との絆を再発見する時間となった。青山高校はこれからも卒業生の心の中に生き続ける。

小説『星の王子さま』に「大切なものは目には見えない。その目には見えないものを、心で見ると」というくだりがあります。もう青山高校は看板も外され、



同窓会長兼
グランドファイナーレ実行委員長
安達 澄

青高のDNAを 翔青へ

形としては残りません。憧れだった女子の制服を着る人もいなくなりますが、しかし、大事なことは、ちゃんと皆さんの心の中に母校やその思い出が存在することです。そして、われわれのDNAは翔青高校に引き継がれていきます。この青高同窓会も、翔青と一緒にやっつけていく計画です。



大分県立別府青山・
別府翔青高等学校 校長
辛島 信昭

校訓・校歌は ずっと青高生の胸の中に

してきました。「明るく強く、心温かく」の校訓、「教えるとは希望を語ること、学ぶとは誠実を…」のルイ・アラゴンの言葉、そして「自由の尊さを知ろう」「信頼の夢を持とう」「生命の豊かさを知ろう」と呼びかける校歌は、きっと青高生の胸の中に輝き続けると思います。